

# 中国都市集合住宅における居住者の入浴慣習の現状と入浴空間の住様式的検討

## その1 公衆浴場の利用と住宅内浴室における居住者の入浴慣習の実態

○趙 萍\* 今井範子\*\* (\*奈良女大・院 \*\*奈良女大)

【目的】近年、中国の経済が高度成長するにつれ、都市居住者における住生活の水準は向上し、住宅に対する関心も高まりつつある。その中で、都市集合住宅では、3点1室の浴室の導入と浴室設備の改善にともない、都市居住者の入浴習慣や入浴様式、さらに入浴意識において、著しい変化が生じている。本研究は、中国都市集合住宅の居住者における入浴習慣や入浴意識の実態を明らかにするとともに、今後の入浴様式の発展方向について考察することを目的としている。さらに、変化した入浴習慣や入浴意識に適応した入浴空間について検討を行う。その1では、入浴習慣や入浴意識の現状を把握し、今後の入浴様式の発展方向を考察する。

【方法】中国の内陸都市の西安における建築年数3年未満の新しい集合住宅に居住する496世帯を調査対象に、質問紙調査を実施した。有効サンプル数は357、回収率は78.8%。

【結果】①空間的な余裕や経済性などの理由で、調査対象世帯の3割弱は、なお公衆浴場を利用しているが、「自由に利用できる」、「好きな湯温を選べる」などの理由で、調査対象世帯の9割は住宅内浴室を主に利用するようになっていく。②入浴方法については、「衛生的」・「簡単に済ませる」などの理由で、9割の世帯で「シャワー式」の入浴方法を採用している。③乾燥した気候風土ゆえに、入浴は日本ほどさかんに行われませんが、入浴回数や入浴時間帯は、冬季と夏季とでは異なっている。④入浴意識については、清潔のために入浴する者が多いが、若年層において変化が生じ、入浴に「美容」、「くつろぎ」や「気分転換」などを求める傾向がみられる。以上のことから、公衆浴場はなお存続するが、住宅内浴室に対する志向が一層強くなると推測できる。また、一部の居住者が朝入浴するようになったように、入浴習慣に変化が生じていることがわかった。さらに、入浴に「清潔」だけでなく、「美容・くつろぎ」などを求めているように、入浴意識が多様化していることが明らかになった。